

講義名	金融論(商学部)			授業形態	
担当教員	福田 司文	開講期・曜日・時限	後期 金曜日 1時限		
		単位数	2	履修開始年次	2年生

主題と概要

金融市場の役割とそれがどのように経済活動に貢献しているかを理解する。金融市場では金融取引と称される経済活動が行われ、そこでは金利が重要な活動指標となっている。金利がどのように成立するのか、どのような環境によって変動するのかを中央銀行との間わりでも理解を深める。

到達目標

- (1) 金融取引の仕組みを理解できるようになる。
- (2) 金融機関が金融市場で果たす役割について理解できるようになる。
- (3) 金利について理解できるようになる。
- (4) 金融政策の初歩について理解できるようになる。

提出課題

理解確認のクイズをレスポンスを通じて毎回実施。教室での理解確認以外に数回課題提出を求める。授業時間内でレスポンスに回答を求めます。提出時間を過ぎた送信は無効、No、です。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

受講者に対し、課題の理解ポイントを授業で確認・解説する。

評価の基準

授業でのクイズ出題の回答、レポート課題を採点した評価を40%、期末試験での評価を60%とする。

履修にあたっての注意・助言他

金融活動は皆さんの生活にあまり関連がないので、金融用語等は難しいと思います。しっかり理解してかつ金融活動に興味を持って受講してください。

教科書

.使用しない。

参考図書

その他

授業は印刷資料を配布します。

参考文献
 金融の仕組みと働き、岡村・田中他、有斐閣ブックス
 金融システム論、岡村・田中他、有斐閣コンパクト
 金利と経済、翁邦雄、ダイヤモンド社

授業計画

1. 概要の説明
2. 金融の仕組みと働き
3. 預金の流れ
4. 銀行の活動
5. 証券会社、保険会社、ノンバンク
6. 金融市場
7. 金融取引と金利
8. 金融取引と特徴と課題
9. 金融取引と公的機関
10. 貨幣の働き
11. 金利のコントロールと金融市場
12. 金融政策
13. 日本銀行の役割およびブルデウス政策
14. 新たな金融の仕組み
15. まとめ

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

復習を中心に学習を指示する。授業中課題を持ち帰って自宅で完成させる。あるいは配布プリントの理解を求める。毎回、授業の復習に2時間程度必要です。課題作成には更に2時間の時間が必要となるので、10分時間を取ってください。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

会計コースとの関係
 目標(1)、(3)を達成することで金融業界の動向を理解できるようになる。授業計画の4、5、6回の各金融業の役割で言及する。本科目の到達目標はDP の財務諸表の理解とは直接的には関連していない。到達目標(1) - (4)を達成することで、企業の財務上の戦略構築に貢献できる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考
